

注目！がん看護における最新エビデンス

がん患者が診断時に標準治療でなく代替療法を選択した場合の生存期間

Johnson SB, Park HS, Gross CP, Yu JB. Use of Alternative Medicine for Cancer and Its Impact on Survival. J. Natl. Cancer Inst. 2018; 110(1).

アップルの創業者でiPhoneの生みの親でもあるスティーブ・ジョブズはすい臓がんで亡くなりました。彼のすい臓がんのタイプは進行が比較的緩徐で手術が有効である神経内分泌腫瘍でした。しかしジョブズは、診断時に手術ではなく代替療法を選択し、実際に手術を受けたのは検査で腫瘍の増大が確認された10カ月後となり、この代替療法の選択が死期を早めた可能性が指摘されています。

今回紹介する論文は、がん患者が診断時に標準治療ではなく代替療法を選択した場合の生存期間を比較した論文です。アメリカのがん登録のデータベースから2004～2013年に診断された転移がない乳がん・肺がん・前立腺がん・大腸がんの患者190万人を対象に行われました。代替療法群は「医療従事者以外により実施された有効性が明らかでないほかのがん治療」を受けたと記録されており、標準治療（手術、放射線治療、化学療法、ホルモン療法）を受けていない人と定義されました。190万人のデータベースから280人の代替療法を選択した患者が同定され、原発部位や年齢、病期、併存疾患などが同じである標準治療を受けた患者560人と比較しました（1対2でマッチング）。

結果を図1に示します。全体の5年生存率は標準治療群では78.3%でしたが、代替療



宮下光令 教授

東北大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

みやしたみつり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業。臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

法群では54.7%でした（ハザード比2.50, $P < 0.001$ ）。この結果は原発部位によって異なり、比較的進行が緩徐な前立腺がん以外のすべてのがんで大きな差が見られました。

乳がん：86.6% vs 58.1%（ハザード比5.68, $P < 0.001$ ）

肺がん：41.3% vs 19.9%（ハザード比2.17, $P < 0.001$ ）

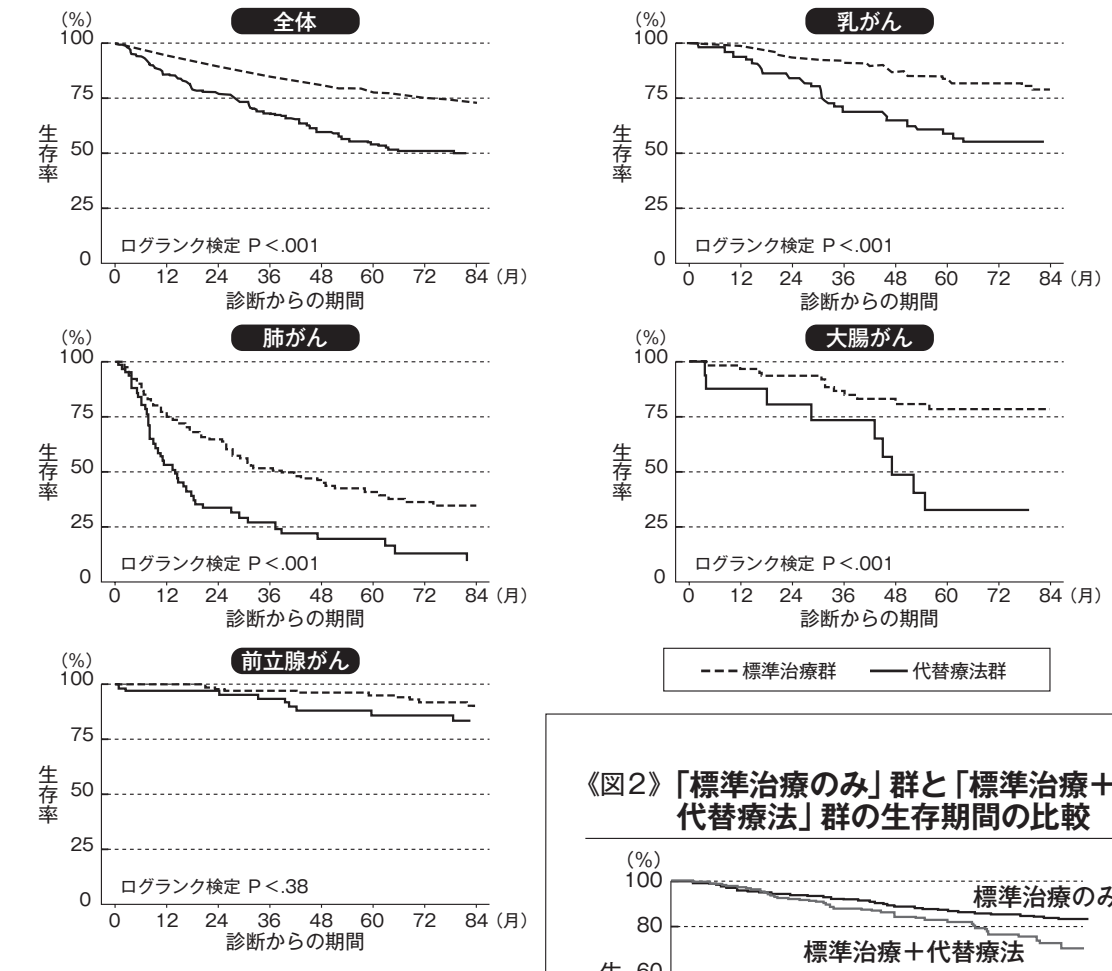
大腸がん：79.4% vs 32.7%（ハザード比4.57, $P < 0.001$ ）

前立腺がん：92.9% vs 86.2%（ハザード比1.68, $P = 0.36$ ）

本研究の代替治療群の患者には、その後、標準治療を受けた患者も含まれていると思われます。そう考えると、最後まで代替治療しか受けなかった場合の生存率をもっと悪いということになるでしょう。

読者の方は「標準治療を受けずに代替治療を受ければ、予後は悪いよね」と思われると思います。本論文の著者は、同じデータを用いて別の雑誌に興味深い論文を発表しています¹⁾。こちらの論文では、標準治療を手術、化学療法、放射線治療、ホルモン療法のうち1つでも受けた場合、標準治療を受けたと定義し、診断時に「標準治療のみを受けた患者」と「標準治療＋代替療法」を受けた患者の生存率を比較しています。この分析で同定された258人の「標準治療＋代替療法」群の患者は、「標準治療のみ」

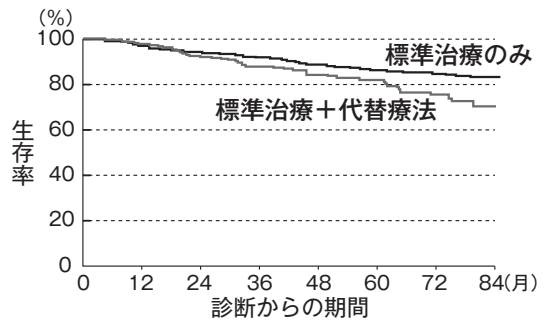
《図1》標準治療群と代替治療群の生存期間の比較



群に対して標準治療を拒否する割合が高く（手術：7.0% vs 0.1%， $P < 0.001$ ，化学療法：34.1% vs 3.2%， $P < 0.001$ ，放射線治療：53.0% vs 2.3%， $P < 0.001$ ，ホルモン療法：33.7% vs 2.8%， $P < 0.001$ ），5年生存期間も短いという結果でした（82.2% vs 86.6%，ハザード比2.08， $P = 0.001$ ）（図2）。さらなる解析の結果，この生存期間の差は標準治療の拒否や遅れが理由である可能性が示唆されました。

本研究から，標準治療を受けることの重要性が数値的にも実証されました。標準という言葉は，標準＝平均的というニュアンスで受け取られ，「もっと良い治療があるのでは」「最先端ではない」と考える人がいると聞い

《図2》「標準治療のみ」群と「標準治療＋代替療法」群の生存期間の比較



たことがあります。そのため，ジョブズのような成功者や芸能人などが「特別な治療」を求めてしまう傾向があると考える人もいます。「標準治療」という言葉の意味も含めて，よりよい患者と医療者のコミュニケーションが求められるでしょう。

引用・参考文献

- 1) Johnson SB, Park HS, Gross CP, Yu JB. Complementary Medicine, Refusal of Conventional Cancer Therapy, and Survival Among Patients With Curable Cancers. *JAMA oncology*. 2018 ; 4(10) : 1375-1381.